No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080 FAX：084-966-8009

配合計画者名 久保田 良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日・9月21日～12月10日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	使用区分2号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項(任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	回収細骨材	-	－	－	－	－	－	2.67	7.0未満
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq % 0.9
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標スラッジ固形分率	1 %未満		
回収骨材の使用方法	細骨材	B方法	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	A方法	

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
332	－	－	174	502	336	－	578	385	－	－	1.83	－	－

水セメント比	52.5 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.8 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項　W/C≦55% AIR=4.5% 材齢28日

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8\ N/mm^2$$

よって　m = 33.8 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -10.14 + 23.07 × C/W

W/C = 23.07 ÷ (33.8 + 10.14) × 100 = 52.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 52.5 %

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W = 174 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 174 ÷ 52.5 × 100 = 332 kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 332 ÷ 3.04 = 110 ℓ/m³

(6)空気量(A)　A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.615 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 ℓ/m³

G1v = Gv × 60.0 % = 214 ℓ/m³　G1= G1v×表乾密度 = 214 × 2.70 = 578 kg/m³

G2v = Gv × 40.0 % = 143 ℓ/m³　G2= G2v×表乾密度 = 143 × 2.69 = 385 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 686 = 314 ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 188 ℓ/m³　S1= S1v×表乾密度 = 188 × 2.67 = 502 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 126 ℓ/m³　S2= S2v×表乾密度 = 126 × 2.67 = 336 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 46.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 = 332 × 0.550 % = 1.83 kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
332	−	−	174	502	336	−	578	385	−	−	1.83	−	−

水セメント比	52.5 %	細骨材率	46.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②	60.0:40.0
					粗骨材①:②	60.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 （夏期標準配合）
コンクリートの打込み箇所	使用区分2号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	回収細骨材	-	－	－	－	－	－	2.67	7.0未満
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000SR	種類	AE減水剤(遅延形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％ 1.0
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標スラッジ固形分率	1％未満		
回収骨材の使用方法	細骨材	B方法	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	A方法	

配合表 kg/m³

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	粗骨材④	混和剤①	混和剤②	混和剤③
332	－	－	174	502	336	－	578	385	－	－	2.32	－	－

水セメント比	52.5％	水結合材比	－％	細骨材率	46.8％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項	W/C≦55% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8\ N/mm^2$$

よって　m = 33.8 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -10.14 + 23.07 × C/W

W/C = 23.07 ÷ (33.8 + 10.14) × 100 = 52.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 52.5 %

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W = 174 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 174 ÷ 52.5 × 100 = 332 kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 332 ÷ 3.04 = 110 ℓ/m³

(6)空気量(A)　A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.615 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 ℓ/m³

G1v = Gv × 60.0 % = 214 ℓ/m³　G1= G1v×表乾密度 = 214 × 2.70 = 578 kg/m³

G2v = Gv × 40.0 % = 143 ℓ/m³　G2= G2v×表乾密度 = 143 × 2.69 = 385 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 686 = 314 ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 188 ℓ/m³　S1= S1v×表乾密度 = 188 × 2.67 = 502 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 126 ℓ/m³　S2= S2v×表乾密度 = 126 × 2.67 = 336 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 46.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 = 332 × 0.700 % = 2.32 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
332	−	−	174	502	336	−	578	385	−	−	2.32	−	−

水セメント比	52.5 %	細骨材率	46.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080 FAX：084-966-8009

配合計画者名 久保田 良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	12月11日～3月10日 （冬期標準配合）
コンクリートの打込み箇所	使用区分2号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	回収細骨材	-	－	－	－	－	－	2.67	7.0未満
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％	0.9
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標スラッジ固形分率	1％未満	
回収骨材の使用方法	細骨材	B方法	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
332	－	－	174	502	336	－	578	385	－	－	1.16	－	－

水セメント比	52.5％	水結合材比	－ ％	細骨材率	46.8％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項	W/C≦55% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8\ N/mm^2$$

よって　m = 33.8 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -10.14 + 23.07 × C/W

W/C = 23.07 ÷ (33.8 + 10.14) × 100 = 52.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 52.5 %

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W = 174 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 174 ÷ 52.5 × 100 = 332 kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 332 ÷ 3.04 = 110 ℓ/m³

(6)空気量(A)　A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.615 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 ℓ/m³

G1v = Gv × 60.0 % = 214 ℓ/m³　G1= G1v×表乾密度 = 214 × 2.70 = 578 kg/m³

G2v = Gv × 40.0 % = 143 ℓ/m³　G2= G2v×表乾密度 = 143 × 2.69 = 385 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 686 = 314 ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 188 ℓ/m³　S1= S1v×表乾密度 = 188 × 2.67 = 502 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 126 ℓ/m³　S2= S2v×表乾密度 = 126 × 2.67 = 336 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 46.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 = 332 × 0.350 % = 1.16 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
332	−	−	174	502	336	−	578	385	−	−	1.16	−	−

水セメント比	52.5 %	細骨材率	46.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日・9月21日～12月10日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	使用区分2号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項(任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq % 0.9
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標スラッジ固形分率	1 %未満		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	A方法	

配合表 kg/m³

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	粗骨材④	混和剤①	混和剤②	混和剤③
332	－	－	174	502	336	－	578	385	－	－	1.83	－	－

水セメント比	52.5 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.8 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項	W/C≦55% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8\ N/mm^2$$

よって　m = 33.8 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -10.14 + 23.07 × C/W

W/C = 23.07 ÷ (33.8 + 10.14) × 100 = 52.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 52.5 %

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W = 174 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 174 ÷ 52.5 × 100 = 332 kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 332 ÷ 3.04 = 110 ℓ/m³

(6)空気量(A)　A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.615 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 ℓ/m³

G1v = Gv × 60.0 % = 214 ℓ/m³　G1= G1v×表乾密度 = 214 × 2.70 = 578 kg/m³

G2v = Gv × 40.0 % = 143 ℓ/m³　G2= G2v×表乾密度 = 143 × 2.69 = 385 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 686 = 314 ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 188 ℓ/m³　S1= S1v×表乾密度 = 188 × 2.67 = 502 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 126 ℓ/m³　S2= S2v×表乾密度 = 126 × 2.67 = 336 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 46.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 = 332 × 0.550 % = 1.83 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
332	−	−	174	502	336	−	578	385	−	−	1.83	−	−

水セメント比	52.5 %	細骨材率	46.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 （夏期標準配合）
コンクリートの打込み箇所	使用区分2号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000SR	種類	AE減水剤(遅延形Ⅰ種)	Na_2Oeq %	1.0
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標スラッジ固形分率	1 %未満	
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	粗骨材④	混和剤①	混和剤②	混和剤③
332	－	－	174	502	336	－	578	385	－	－	2.32	－	－

水セメント比	52.5 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.8 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項	W/C≦55% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8\ N/mm^2$$

よって　m = 33.8 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -10.14 + 23.07 × C/W

W/C = 23.07 ÷ (33.8 + 10.14) × 100 = 52.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 52.5 %

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W = 174 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 174 ÷ 52.5 × 100 = 332 kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 332 ÷ 3.04 = 110 ℓ/m³

(6)空気量(A)　A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.615 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 ℓ/m³

G1v = Gv × 60.0 % = 214 ℓ/m³　G1= G1v×表乾密度 = 214 × 2.70 = 578 kg/m³

G2v = Gv × 40.0 % = 143 ℓ/m³　G2= G2v×表乾密度 = 143 × 2.69 = 385 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 686 = 314 ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 188 ℓ/m³　S1= S1v×表乾密度 = 188 × 2.67 = 502 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 126 ℓ/m³　S2= S2v×表乾密度 = 126 × 2.67 = 336 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 46.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 = 332 × 0.700 % = 2.32 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
332	−	−	174	502	336	−	578	385	−	−	2.32	−	−

水セメント比	52.5 %	細骨材率	46.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	12月11日～3月10日 （冬期標準配合）
コンクリートの打込み箇所	使用区分2号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－kg/m³
	塩化物含有量	0.30kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％ 0.9
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標スラッジ固形分率	1％未満		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	A方法	

配合表 kg/m³

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	粗骨材④	混和剤①	混和剤②	混和剤③
332	－	－	174	502	336	－	578	385	－	－	1.16	－	－

水セメント比	52.5％	水結合材比	－％	細骨材率	46.8％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項	W/C≦55% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8\ N/mm^2$$

よって　m = 33.8 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -10.14 + 23.07 × C/W

W/C = 23.07 ÷ (33.8 + 10.14) × 100 = 52.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 52.5 %

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W = 174 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 174 ÷ 52.5 × 100 = 332 kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 332 ÷ 3.04 = 110 ℓ/m³

(6)空気量(A)　A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.615 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 ℓ/m³

G1v = Gv × 60.0 % = 214 ℓ/m³　G1= G1v×表乾密度 = 214 × 2.70 = 578 kg/m³

G2v = Gv × 40.0 % = 143 ℓ/m³　G2= G2v×表乾密度 = 143 × 2.69 = 385 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 686 = 314 ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 188 ℓ/m³　S1= S1v×表乾密度 = 188 × 2.67 = 502 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 126 ℓ/m³　S2= S2v×表乾密度 = 126 × 2.67 = 336 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 46.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 = 332 × 0.350 % = 1.16 kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
332	−	−	174	502	336	−	578	385	−	−	1.16	−	−

水セメント比	52.5 %	細骨材率	46.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

備考